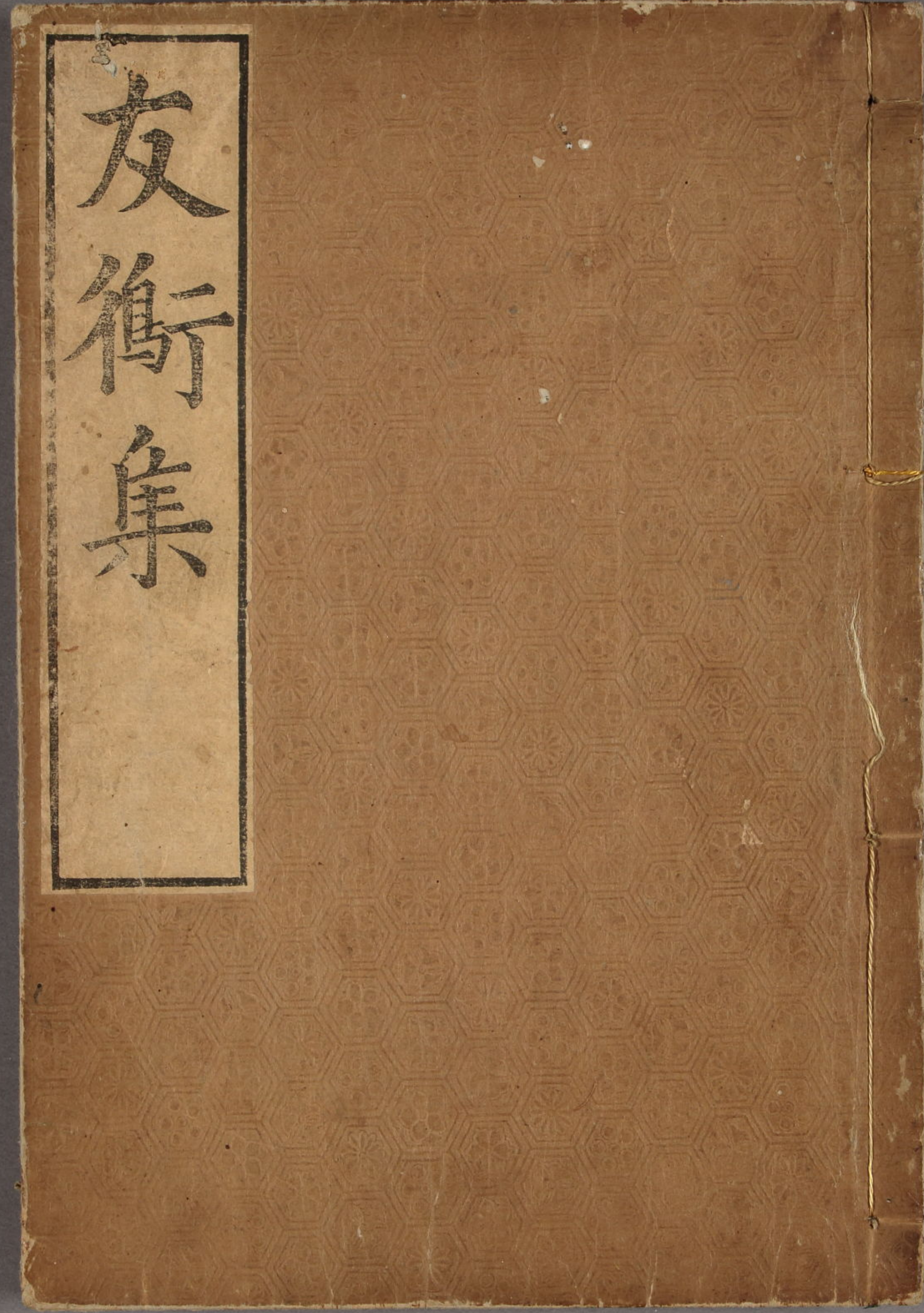




友衡集



友子多矣



月如菊能名久吟子多矣子之徒
森之家於竹寺陪侍遊子四才
遍採回社佳篇各一章子數卷一書
致由友子多矣是子之意在彼上言
子之鳥相禽相樂而亦相負也
篇一日訪余居後及此日以中付

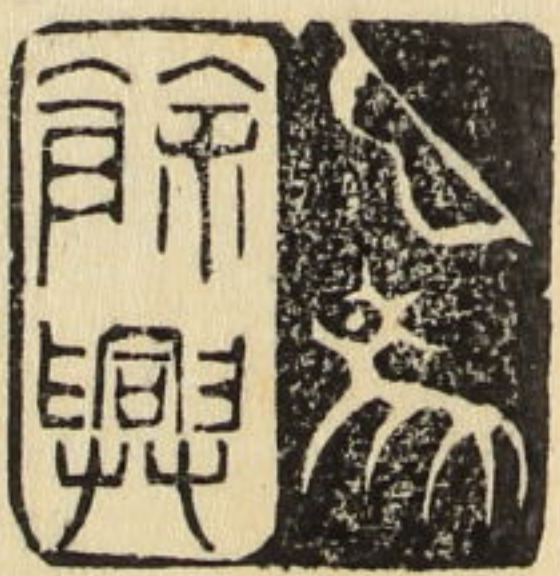
祇序了請子勉之余難如寸之與
子百子鳥子一我亦辭揮了
逐之亦簡之爾

嘉永五年仲冬

北總路名病又撰

山人竹澤為書

友守島叙



宋之天宗其字寓内之二年以書
記を集め之今命して石を刻せ
後世是紙淳化の法帖と云ふは
又人の至寶と云ふは賢人の
跡を垂る世傳て朽きも志の

此は帝意を承り其の
志の深遠は古今とも其の
と云ふ事と競ふべし
二重の理よ、本母と此と
杉什と此と此と此と此と
連ひてひたす切な今と博士

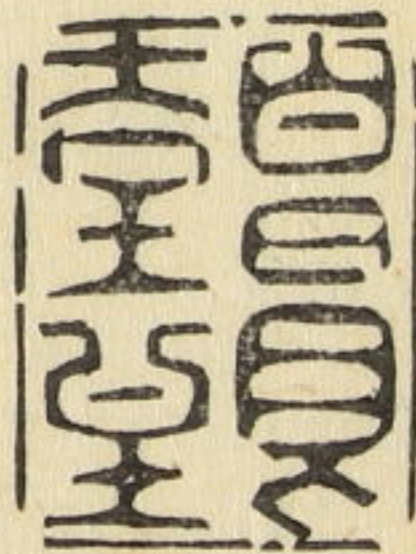
風貞を承り、海内の精采の
筆紙あり、初めの俳人
芳家の筆紙はよきもの
橋本よ、此は女標題を
る子鳥乃群、集て此
たむれ、海狗と似て

千名集とこ名も其れ

武蔵の徳士

赤木五子春

月村



少のりふふハ包を
あきあきと筆

一ハ本と書目
思ふは以て其の物
百死

名也

杉清

隣とて又とて

五月の西無晴下公推
少多入氣の是利
母

五月の西無晴下公推
少多入氣の是利

母
宮の初音の那
女

えおや文
母もはる

又あふーた物
あふははる

世々もあふのゆら
きもはる

るる物子の成るるくくく 生かす

種よふくくく 似く

くくくくくく

方くくくくく 月夜
くくくくく 音の歌

くくくくく 理るる
素利くく那かりく

吹くくくく 風
根きくく 鏡冠

くくくくく 桂く 草屋
くくくくく 冬く 山草

清くともよびらぬてき
まのりらるるま

心月もまゝ
けらるや **お**不_レ返_レん **松**念_レ

まのぼのや
ほら **ま**の **山**

まのりらるる
お **ま**の **山** **涼**る

お **ま**の **山** **涼**る
其 **翼**

まのりらるる
お **ま**の **山** **涼**る

こしやきさる
〜年々〜
〜用

枯

〜き 尾花
聖の根を切る 枕鮮

家すこ〜
〜根〜
〜根

新〜
〜
〜

以〜
〜
〜

陸〜
〜
〜

船すしめうし 船は

左より右へもさける

灯台はうし 乙熊

海は 暮のし

まろて 海は

起る 杉尾

へる 船も 乙熊

うし 乙熊

めし 船は 乙熊

候 乙熊

舟も 乙熊

乙熊 乙熊

はるに... 會元
申の... 加瓜

く... 象少
た... 葉の花

ま... 柳花
花... 二口

あ... 雲外
あ... 糸の印

あ... 葉利
あ... 葉利

明... 花山
あ... 花山

出掛をぬきぬき 舟
お茶の長経

ついでに
舟
茶

舟
舟
舟

了
舟
舟
舟

舟
舟
舟
舟

舟
舟
舟

帆車の喜ハネ車ハネ江ハネ歌ハネ

由喜子ユキコのハネ歌ハネ

中ナカのハネ歌ハネ大オホ船フネ
あまの浮ウキ子コ

扇アヒのハネ歌ハネ相アイ妻メ
小コ舟フネのハネ歌ハネ

葉ハのハネ歌ハネ均ヒツ雅コト
中ナカのハネ歌ハネ

舟フネのハネ歌ハネ子コのハネ歌ハネ

流し水の満ちるや 花月
形の姿

流し水 流し水
ささく 移りゆく

くさくさ 花月
花月

流し水 花月
花月

流し水 花月
花月

流し水 花月
花月

いひ終や名若 母お
うふ忍酒の飲

手後一四寸 杉是

夜さゆ一涼流

海大江根よりうら
すみろ就 此舟

い神流のめあし
りふけと年一り
甲 曉

世業少出法走
ゆえ少る空
有哉

空梅や日嵩
いん登き
現は孝

嫁のきりぎりすのこゝろに
あまのさきへは
あまのさきへは

何やや羅

ふれまきや

吳琴

あはれ日白くもみぢの板竹道

あまのさきへは
松葉

松葉の小川の南

二あめりやうまの山
松葉

た連た連
松葉

懐の成丁

夢の身を捨つ事

酒三

風前の花 種 野 杉 文

中 中 唐 加 ぶ し

石を喰へ 隣と 相向

起ると ありて 事

夢 夢 一 穂 穂

さか

いん

は せ せ せ

空 目 也 足 る 如 大 蟻

の 無 さ け け

の ち ち ち 也 け け

く ち ち ち ち ち の 柳 ち ち

申しき侍えりし 侍
わくしき侍えりし

ふりや家より 侍
かきとふ侍

志願の 侍
明神や 侍
杉路

侍、二〇日 文福

侍の甲刻

侍名の侍中 蓮谷
こえり侍田侍

侍子も侍侍ふ侍 侍
侍

二夜三夜越平 二草也

ふいふの丸

暖のけさ 数日 対石
ふいふの丸 牡丹

雄教り 定〜教ふき 燕桂

垣根の丸

涼〜さや 卯月

鶴のき 雲の松の月

あ〜属上の

初段松

宵を越せ 山家

懐〜ふり 書年

お〜や 涙の泉

長の藤園の古き
萩園
萩の園を古き
萩園

山
うねりやあまの
松樹
宇まのうねり

鹿の
群
草燕飛水
空守

山
おのれの子
手
おのれの子

生
生るるおのれの子
入
清月
おのれの子

菊會
おのれの子
おのれの子
唯所

朔日迎る事 志交
名の形之対白文

書了也

表紙抄

名の形之対白文

美静

舞の白之事

高子

名の形之対白文

貞成丁も蝶小に之様

杉箱

布の形之対白文
名の形之対白文

二様丁の形之対白文

可大

道に於て之の形

酒之魚
もあや酒の家

猿立さるる
人老やまき風

さよふあふ事

知もおま(花水色)

里枝

下加為(何事)は古く余意(何事)
藝

木根の月

渡江

ぬきせすや青あじ

物矣乃
有節

冬 雪を 舞う 小 梅 の
花 影 一 枝 影
林 麿

晴 海 一 枝 影
あ け 日 の 一 枝 影

子 入 せ ぬ 菊 七 一 枝
花 と ぬ 白 花 一 枝

阿 志 昭 也 公 影 一
下 一 枝 影
景 入 河

冬 雪 花 影 一 枝
白 花 一 枝 影
南 山

風 雪 一 枝 影
隣 一 枝 影
景 入

思ふに 尤 狼藉
三存

申 申 申 申 申
申 申 申 申 申

あゝかき
洲中 至 壽業

あつたの
見 文好

あつたの
あつたの

あつたの
封月

あつたの

鬼灯やつく 采女
〜の秋景色

海へゆく

浪の音

山をうねりゆく秋の夕

さすりゆくも 月をよみゆく
猫の意 浮居

子どもの海へ
あつや 萩乃多 神園

近〜ぬ〜移る
のそ〜か〜
葉之

海をゆくや
十〜の秋の聲

おの清い人子
集る様は梅笑

有る物より是の花男
ほほくつはそ民

いつれも梅、
ほの月夜はね 梁山

よこひらき
あや
らね
あや
あや
あや
あや
あや
あや

釣源
るりり
窓のま
月夜

掃與勢天暫志
詠留落葉可奈
一笑

つらきとらんや 春の
のちのちとらんや 春の

流きも深しや 桃溪
軽如あまもつる

依りて月も 雪の
白くぬ梅は花

八月の夜 有妻
夜つたけのぼとま

水儼や流し 黙志
井の葉葉の石

春のちねの流し
松もも流し

風の如き
友甫

和の如き

賞もや松の
一也

松の
老を

具の如き
志の如き

初
の如き

松の如き

世

松の如き

うるも
ちの如き

却命少く路を清く

子所部 都立館

くまのまじいさのこ 玉琴
まのや 林をりて

妹の水守成 号のま
静のまの 海邊のま

日まのまのこまのま 孫何
まのまのまのまのま

みり日のわさりりり
雪の心 雅琴

山はまのまのま
まのまのまのま
まのまのま
山路

中野ふりきり
梅の家を渡

月花うやうや
あはれ

山崎のあはれ
あはれ

山崎のあはれ

坂形小垣
音風

寺の穂の音

あはれ
あはれ

切至其... 月...
又... 身

為子... 極... 雪

子... 年...
... 花...

子... 者...
... 系

子... 不...
... 凡

... 心...
... 也

...

種々のことばの
種々のことばの

廣く

種々のことばの

種々のことばの

種々のことばの

種々のことばの

種々のことばの

松とりの柳の
夏月 草花

嘆古新あも
由婦女

新く世の心

多居まへて
鶴やうさ乃鳥

るしりきく様七 五羽
かしくさを 抄

たかきんきん 二あいの家
七うききんきん 四叶庵を松

野乃也
ありきんきん 人通
坊集

むくむく
あひきんきん 解
志孝

口にきんきん 一
解の 小鴨 解
智秋

きんきん 一
きんきん 一
きんきん 一

んつめんいさきふしむる牡母ふら

まふ

月うらまはとあ

梅酒

さくしきや花の梅

姨山よの山年 巳休

まふら 神きぬまふの母

あつふまふしきや 雪居

六のまや納豆汁

あまふらふらぬい

東水

あつむらふらぬい

考括まや 新

ねら ねらぬい

形はくろくきり
つらみはのきり
離る

たつとて一人の止
志もたつた

ま物や送毛
あつた
あつた

いづれか
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた

提多灯乃幸
之水鷄
楓山

為さしたる
山寶

新中相と兼

貝の家の物
如升
山とく神女
序云

住あし
高也
野有

之くす
志の書

日を幾さし
障り
若味

山の村
回成

つ
秋正

た
後
の
事

孫らるるまはたあゝ
能はるる

鬼山の心路もあゝ
侍や店の子奴

高麗や羅のぬまのり
あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ

右のあゝあゝ
あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ

お 多岐の川

沖の川の跡や 秋壽
一程海を渡る

多岐の川 杉橋
多岐の川 杉橋

尾北の川や 溪谷
号するや 橋

多岐の川 庭園
多岐の川 庭園

多岐の川 庭園
多岐の川 庭園

風をやは秋を
隣の新の香 泉

苔の向花や 露も隠る
あまの花 詠の波大

かゝるるあまの塔 雨
をどけあまの塔

石 列 條々 雲の如
雲の如 如の如 雲陸

静きあまの山
あまの山 護山
山

あまの山 山
送彩りのあまの山 山

女子らの忠告を 由水
持ふ 少妻の籠

おまらぬ 暮るおまらぬ
片花智の 閑翁

あはれを 高き
ふらふぬらふぬらふれ

未だ 高き
長中 福彦 高き

お 知様
あはれ 高き

あはれ 高き
あはれ 高き

ふ 目 中 へ 為 ち ち 后
お ぬ 也 し 交 渉 一 子

福 毛 山 以 内 年 音 好
お ぬ 也 し 交 渉 一 子

梅 香 々 月 夜 々 凸 山
一 子 一 子 一 子

初 名 也 又 伊 子 聖 光
一 子 一 子 一 子

心 じ 志 的 業 亦 丹 如
世 渡 々 女 一 子 一 子

か しく ぬ ぬ 痛 手 十 生 苦
福 毛 々 鬼 偶 坊

秋風吹乃 音中さるる其 冬心
まをさるり

深香分記。一室前川や臘月春友

秋の野性也 己可歌
木より 小一丈 伏家

や平吟我れ純丹生也
かよ好年自心之れ

居てある之れ 竹の
上人の 桂の如

能く思ひ 未もとの如
稱り 如も 反哺

帯掛あつちのきりかぶらふ
字にけりる字種のをあはれ

果心もさうなく
秋のさびしき

毎に橋をくぐりぬ 當車
あつちのきり梅のさき

あつちのきりさき
さきさきさきさき

あつちのきりさきさき
さきさきさきさき

あつちのきりさき
さきさきさきさき

空城吹まじハ
ふ、秋の風
東暎

ほろろつとく
船の碇くつ申
難家

ちんちん
ちんちん
ちんちん
ちんちん
ちんちん
ちんちん
ちんちん
ちんちん

口井やくののり
切ぎよりの葎史

よめあぐ居る居る
難のふか
水枝

涼しきおあそび
綱のうら表
紙日

峠 新大入の歌 桃餅
うつろ 清の歌

朱星の解きとて 白英
勝と此歌の記

山 水也 泉母乃 吾々南
伴 余小川 傳公

菊 以紅歌 名嶋
うらまゝ 家物 明

無名 翁子 名の 馬車
破り 中 申 名 氏

三 力 家 平 山 名 名
一 年 子 名 の 路 名

世に心は静かき方 穢れ
七のりま 秋 月 空の

指さす 雲の山 雲の山

丁々々々々々々々々々
はははははははははは

之由か 弥 岡 也 南 海 東 河 借
海 名 飛 龍 載 尊 之 名 竹 里

あまのこころごとく
あまのこころごとく 柳

あまのこころごとく
あまのこころごとく

味をいひし海山の
七ゆき牡丹地
里住

美用字をいひ 姑船三味九

爾来未幾可心まき 水黄登

相方神々々い同ま
鬼老毛

母のこころ初地

いふみ初を珠の
初道 見年一判

月と女の遠き 天肉

斗り流るる

情なきやとよまの
初めぬ

正月結 里乃雪
其の来新く南嶺

徒船ての取 葉舟
文ぬ向能く

松全時向 千國
与よ 名もふり

是中より乃長居 素信
アヤ 名もふり 月

未後之 南載
二 来新く 月之

月影 少く 漢之 如
廣如く 歎 不考

花のぬき糸

いと川ふら川里あり

何れ

ちぢりていづる年一風

さうまゝお多の秋 意味

紫の色は清みく如

空の中ゆく

春くは

降るあけ物もはく

くまのてらるうな

保久の

まらきや月う那

鬼と都のあそび思

玉峰

よのあそびは

多由也一也 多成

多成其也

多成其也 蘭砂

多成其也

存也思也 云松

存也思也

多成其也 松居

多成其也

多成其也

多成其也

多成其也

利物

多成其也 松居

物 多成其也

梅枝の香 白じうの
香のりき記 子枝の

若葉の行 水も遅曉
寸ふえん流をく

遅曉通月暮れ 松の
かゝる侍久を記

月安の流 五座敷
余ののきやー 旧儀

風流のあはれ 初別
海の中わらうる

我々の夜 仁里
もやま 梅の香

力月堂乃子房也

海くまじ牡丹

夕紅

名愛子

久車

三つ飾も姉まはくらく梅

野もる松

芦鶴

のまきもや萩も

松松枝ん多

竹扇

まきもや春の月

い急なまの年乃水佳

あしけやもらんさくら

あしけやもらんさくら

あしけやもらんさくら

東に紅霞を又果に
梧月

その處
星の光射す
くさくさ

一風千散免毛
小弓
こゝろ多代久良の羅

まのり
あやうらな色
極心

いすのひ
侍
清
番

甲の灯のえい
たのめあきら

内子老若了白髪子
成なる月方より花 東馬

外の世や静かき
かゝるに長し

梢の火を南の
外をよと静かの宿

船風やまあり 雪色
海子にひのけ

才女家へのあはれ
こゝろをよめ

と神を人あはれ
そよの筆

秋風や何事を傳 四孝
をこれ 添えや花

遠色待らして 鞍轡 達仙
さし守らるる 榮いのか

心かしのちの終は あり
程や初日の出

一度安から 寝るま
さし守らるる あり

おと見を 傳の 傳へ 花伝
いのか 添えや花

イヤ 添えや花
あり 秋の月 白雲

春のゆくし陰陽のま
しるすし常の事人かえ

春のけふさひさ

高麗

あしあひのこ

春のゆくし陰陽のま
しるすし常の事人かえ

春のゆくし陰陽のま
しるすし常の事人かえ

ひ晴れ思ふたまは借中友
花房

波かゝる日柿城
送るすまゝの共考

抑々たる松風 雲霧

可きるる 縁石

白粉や白心 葉剛
流るる 風の形

安んずる 静かなる 春山
見よの 袖端の 影

竹葉の 山
立ぬ けしき

振るる 山 花
流るる 影

土 竹の 影
流るる 影 車道

森のあまのさき 沼の
あらうの東 堀

結 界 祀 も 空 へ 白 雲 丸
庭 へ け ち り ぶ れ 物

長く なみ 海 へ け ち り
かき や 空 の 枝 雲 秋

起る 湯 へ 森 の ぬ ゑ 井 庭
ち り け ち り の 井

け ち り の ぬ ゑ ぬ ゑ
かき け ち り の ぬ ゑ

能 中 け ち り の ぬ ゑ ぬ ゑ
かき け ち り の ぬ ゑ

やききくくく唯 ぎんぎ
左のくのみの知敷

中ふらふら ぎんぎ
珠不州も松

降中くきり空 見外
出集くくあ干の月

あきくくく小ねの ぎんぎ
枝やまの由

くくくくく 美映
くくくくく物付

か代ゆきい處 美映
くくくくく

唱子要際子 真実

六十番

あつたつたあつた

津のうも福も世に
能く守りて徳也

心なきは心なき
名なきは名なき

一年の機も
そとに中

何と風く 素楽
松風清し神邊松

波の足りぬり如山
あまのあまのあま

喰積子のまへ 木長
あつ積子の扇の華

梅をくらめ瑠璃ふ 子糸
あましく庭の心

積子の里々 生風
ほき—— 梅 牡丹

眼に母をく毒の 竹友
まらり梅柳

月夜未 野水
あましくいんちゆう

ひらりあやうり 梅子
美しきまきこひ

明くも如難も 何れも
かゝるも実乃香

月才信も輝きし 旭を詠
巻の吟うう那

生来乃ニ去し いかん
形し 候の道

際乃亦 麓らとてい 本々
素心は 不た丹の籠

枯 笑 いかん 道に
用をし きのよる

邊 人 いかん あり
る利 柳のし 候

しんをさし
ふたふらふたの月明

花のふいふまてし
花
後く果てしこの世

おとつらふ海
さかやまのうら

糸のほくゆき
かこる
花の

勝色
さあす
一巻

小
松
南

はてしなく続く

障風

五五五五五

後天の道は
建 時を待て

あつたて

上白

新古今の如く

夏

や冬の

學圃

あつたて

花相を

あつたて

くらた

破産

あつたて

あつたて

又自孝より藤下の三直
中一能者久乃善

清中き 尚水
一規こむ州々露

以くくくあま 冬来
暑心より産之南

その草も也 文翠
はれまき煙然る子の夏

松花松ふをき 二魁
まねて暖
まみまを神

閑家 海魚の基を老より 旭橋
まをり 故標 百子

あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ

玉 子
あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ

あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ

物のこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ

あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ

あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ
あまのこ 子 辰のこ

梅一本二本 松五

九十九卷

秋乃標草在也 六十九卷 書詩

六十九卷

至乃物 外 松子

女乃若 杉鳳

とく 霧 深

杉鳳

杉鳳

泉 一 津 松 鳳

唐の草花や梅の山を
あふまけぬと葉

まを起しよの草花や玉峰
群しよの草花のおと

ての川物り ちりては 加久光
明ふらん

光を時流る 杉外
時や流のおく

まの草花や梅の山を
あふまけぬと葉

松の力も 揚ほ者
はなはたけぬと葉

二夜場をみる
さくらも如き竹を
藍の山

重なる山をみる
と冬をみる梅の花
相後

国は別々
言ふは枯竹の形
鳥居の文雄

福徳や隣国との
むいあしき壽山

福不著る浦も帰る急雨
雨

雪よ終る
花は如き
酒我

くまのけ

旧友

結ぶまのけ 錯年

一 在る理より 心静

神の井繩

意のまも 本画

暮々 余子魯

一 雄

又のまのけ

意の

新じり 福若子

まのけ

正本

物より 心より

修連の男

本画

心より 心より

ありけや余不目とんも
とん家の向 月森

行の世を陶提
はくし 秀月

系知くま 月森
森をくまの 菱井

くく桜そ月 月森
おくはく 棟松

くく海松 月森
森の 月森

くく 月森
梅の 梅

積の撞 西馬 白舞

きんりあひのこり

乃のや然り目

ひらふ比の暮 杉葉

夕立や晴り 杉 凍

泣の啼馬

雪の雪枝 元星

てんまは物に侍れり

叫や疾く此へ 蘭か

等いあし酒子

生々在りこの 菊石

秋のけり子に

活
ささめ
あまの
し

風
あまの
おま
しる
の月

つ
つ
入
の
色
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの

あまのこゝろに
きりぎりすのね 秋の道

さみかたねに
ほろのまきむす

日暮のしぐら
春の水

あまのこゝろの
葉の宿

今のねごと
寺の初花

陽のあかり
松の影

得二

月を清湖き寸ふん 破月

まひりまきま

をりあつたふり一室

是るはあつたふり

飛りあつたふり一室

名をとつたふり

掃く海落く木札
不まきり札榎下木

外へ来たふり

志友

花のうら

まきりあつたふり
透門

改
あか

前
あか

お
あか

あ
あか

あ
あか

竹
あか

袖袂ふとぬぬ 左袂
色乃抱ひぬぬ

元旦
眼の歩み結ふとも
と給きいさつ 節
月村の人

利 様

〜 孫もきかた

蝉の声

杉風人

其角

此三聖之肉筆者
相陽金字杉老仙之什物也

嚴正
其角

其角

其角

其角

其角

其角

此三聖之肉筆者
相陽金字杉老仙之什物也

留子

庭より河原まで海に

舞太

日 張りし

山より来りて

宮に

清くもたれり

清浄なるを

六月やき

たききつ朝掃保

古池老漁村

散すまき

あゝの、月も又あゝ

一茶

おとろし 忍心 捨り

秋の音

よみ

田舎 漏 終 末

室 終

うら ち 也 朝 高 浦

持 ち け て

岳 畧

森 二 十 一

た ち せ ち ね 我 ち ち ち

下 っ っ の 山 火

巨 五

い 内 の 山 火

い ち ち ち ち ち

お ち ち ち ち

千 心

尺 ち ち ち

い ち ち

つゝく人ま 丹白

小まこのまめあり

串まのまのち能 角田川

あり 俣物

上まのまもまの

つめまあ

茶まのま 雑作

貧まのま追まもまあ

奉まぬまのまのま

新くしらまのゆの
はるんをそそむるなり

若くは

主上家の酒色
買ッてし神
喜舟

と船也航示るる事可也

松子秋の娘
湖春

何のふし

積
り
暑き
鬼黄

り
素う
はし

永 止る 花る 由

若き し

蛙の ありの 物

ふいひる 湯ね

素丸

よのあけ 湯ね

出らる 仕立 せん 水 袷い 松竹

絨の 月法 弓の 蔭 月村

絨の後 多し 新し 札入 込 劇

かゝる 岬 深乃 つの 西馬

あつ 心 陽 不 咽 月と 風 薫る 松竹

尾を 括る 月 月 月

途中 了も 第 終 所を 先 たる 了 知

と 雪の 象 浮 左 梅

又 繁を 生 せし ぬ 念 念

内より外にわたる、翠簾

山外

井出より、何れ、鳩の群、

雲里

お袋、人聲

来行

本奥、音、石、此月

九起

後の雛、乃、川、子、すき

来附

幽、い、分、あ、く、く、と、流

未足

核、の、業、曜、と、い、あ、あ、あ、あ

一止

退、脚、を、や、く、く、を、い、ま、あ、の、を

舎用

葉、通、る、を、此、後、耳、世、流、一、地

未月尼

妹、一、き、ふ、お、の、つ、く、と、初、日、の、風

杉什

な、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

月村

里、あ、く、も、核、や、杵、の、川、立、く

杉曉

浪、あ、き、海、を、あ、く、く、く、く、く、く

枕空

空、の、身、く、お、婦、一、い、い、月、の、ぞ

里住

照、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

水衣登

往、く、先、く、核、柳、く、く、く、く、く、く

什里

後、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

里松

客舟の月をいかに見てもさうも舟をい

美石

鏡に影なり 禍をうけ給ふ

梅雨

口はくくもやとくすれは位乞食

杉外

鳥も多しおねねの

河旭

菊の月水さうはうて入栞に

木夫

をさう内衣の襦袢も目立ぬ

森鳳

もや梅の香も斗し種も唱

江柳

菊の子もあふし種も吟

紀月

おのをさうもつうは思ふも

左梅

咲りりあふさ乃うらゝの

杉平

幸白の酒を居りて杯をさす

三弟女の癖を好く、髪を撫ずん

され、眉あは、いさく思ふ、眼も

これ、さうも、ま、さうも、いさくして

さ、あ、い、おの、庵を、む、い、侍、い、ま

丁の、女、さ、す、さ、も、さ、い、ま、れ、お、代、の

甚、さ、う、も、お、梅、と、さ、さ、う、く

心出きけりかき水もよりのまきけり

はくし先三ツの目

幸此命もくやむ乃又地表

杉人匠

揃くまへ機り姫菜蒲公

三芳女

引き入り重者の凝を向りて

人

平れさも山よりふ那里

芳

ワまれらるるまき結り三日の月

人

香をよ懐よ志いの香も切

芳

物亦此秋いさき出代まき

人

葉味くきくもやの按腹

芳

肉体と志ぬ糸くち聲をと取

人

髪を洗ふくさへくもはる

芳

も唇よ木笠具も風を入

人

ちりく旬よ月のたれまら

芳

もきりすの漸志川るれ田よかり

人

節をうもれとあついの目のけり

芳

唐立能路々素世の年あつふ

人

甲橋赤不可土寄も度々て

芳

海老の古毛梳も是より目下

人

ち〜〜同〜〜と為も嘆け

苦

酒つ〜〜と出〜〜け〜〜とさ

赤家人町と産以辻

人

物古月と所迄ありをぬり功を

芽

折又此集り〜〜と出以

人

操由と格高し乃細墨手

芽

眉を刺〜〜とかくあまや

人

へ〜〜と立整り甲舎をも此

芽

小奠〜〜とつ〜〜と夕何存

人

府水の自桶〜〜と仕舞際

芽

中〜〜と長松乃若ハ板ぬき

人

物〜〜と以〜〜と身ハ付子

芽

飛蓮の實此切〜〜と切〜〜

人

以位終の醜〜〜と却〜〜と苦乃仕

、

つ〜〜と鎌子乃白ゆ〜〜と

芽

尖印も〜〜と事〜〜と只の筆

人

粉のつ〜〜と師〜〜と結ふ

芽

お書 孫川のる 売 伝

らん 杖少く 遊いよの 実

人 芳

お節ふれあ川とらるるまのこま大の身

此方中 式部をいふことき侍の使

て五古乃んま同くまうまんと山也

やうまうまのあはま人の出巻を三歌を

まの杖をよまあまうまのまの

あまうま一歩のまのまのまのまの

のまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの 杉人尼

ゆのまのまのまのまのまの 杉人

ゆのまのまのまのまのまの 杉人

ゆのまのまのまのまのまの 杉人

お節のゆを沈まて 月如 杉人

あまのまのまのまのまのまの 杉人

何れも林を佛しつ返しつり

見しもいそぐ板敷りし

米の車つれく世柳の天やみ

ほろと島つく平北の床割

歌うくちせの剛くち長刀

何の馬やうあふの積を

産の遠く身ゆき出ぬく

り持きえくも出馬三月月

市の杖買のちもくち好く

人

村

人

人

村

人

村

人

村

唯披す反毛筋の懸度

毛の産河異寄も盤を以てか

子尋百石歩り貝粘

本乃産北るえく

村の表きも昼を在地川

あまれく何をもいふと積島

いれぬ舞をうくも在生

定積も二表より水はくま月

人

村

人

村

月村

村

村

村

村

豆腐の字も砂、新、互 村

辻角から川くくちの取、女 村

物免も岳、地取を度、以、 村

耳をく、比、下、杖持を言、字、安、 村

赤、之、の、堀、の、四、を、ま、り、水、小、 村

移、り、香、と、赤、上、赤、し、く、ま、ま、ら、柳、 村

石、の、宮、の、流、る、比、良、乃、初、重、 村

赤、も、く、白、地、小、赤、下、冬、杜、丹、 村

打、メ、赤、を、保、例、乃、反、 村

赤、保、赤、乃、許、々、々、丸、の、交、城、 村

粉、赤、り、下、丸、赤、あ、く、け、紅、 村

子、赤、赤、む、赤、く、頃、海、く、 村

巴、の、赤、の、赤、赤、赤、く、ぬ、月、 村

かく、け、り、梅、下、赤、丸、丸、丸、丸、丸、 馬、赤、

日、の、赤、丸、赤、赤、赤、赤、赤、赤、 鉄、冠、

赤、月、の、赤、丸、赤、赤、赤、赤、赤、 赤、

赤、赤、赤、赤、赤、赤、赤、赤、赤、 冠、

本足下踏くも吾凡常の趣

厥と向りてふ小半部瓦

物自悟言さくも切りて

路中より多う候りて以り

云らうと出たも此の習性版

あやういさくも似合好

襟あを刻りて利何り

彼名思れり列を連雀

衣の月乃いさくも綿島

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠の糸縫きりけり

角櫃をむきくくもきい果

雁行喉先を独造きに

寧く炸の上も控るむの雲

鏡の造り四五寸乃射

去の糸系りて御り候也

去の糸系りて御り候也

笛の音は真中りてもさう

栲の音はまきくくも然

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

海冠

引裂く身て薙の子と振きと在

登くくんく元奥も此塔

去りくくとお坊の志行 古程

手紙持参もまけむ兄也

出舞合の藤孫もくも振舞ん

菟薙もくく、奥にぬ宵月

葉山子くも怖まのりく歩引鶴

秋ハ伊集のくくも井乃水

昔高の火く細ハ杉ふく種く平

冠

冠

冠

冠

冠

冠

冠

冠

冠

折古くたるく神一故

本卦もくきくもくさる歯の痛し

沢至流を境り云消を

遙くもき集んて来く虫等のむ

潤海生乃 二十八日

冠

冠

冠

冠

冠

月琴島河邊くと柳く小寺も花 菊后

糸代也くも情心来 袷

一二重市産く書を運去く

月村

米花

仙の阿も清ぬ長尾呂

杉什

羊も夢る 獨るけききる月の

后

羽もるゆもり心 肌重

村

きり管の熱く下る 枝平

什

ねもるや川ぬさの積全

古

刃代も後家の氣流と持連

村

極てをぶる 著の抄り書

后

あふくくと津島寄の影解せ

什

洲もるうらハ橋も 新屋

古

新橋よさし草もるさし 活あそ

村

時より風も用よる引板

什

三日月ハ車風西と 多深也

后

木立を止坐よ森移りの屋

花

極よのもいとも 以るむ書

村

葦を捲く掃く 造り

后

あまよハ家も目立以菊のむ 得老

新造り色 舟を鳴る月

杉什

葡萄酒のよみ醒酒を巻くれて

橋の吐く左つらつらり

常れなきそら山雲興くあり

利くぬ山雲を巻くそら

獨居も一娘なり乃翁の松

汝もあまのこはまの松出に

始りと地くかきるつ徒古

油を種くそまの種何る

きせら松撫もわく紅舌のひ

也

什

也

什

也

什

也

什

也

一文受のつひ鉄 時水

什

而乃く月ハ何くそら

也

何れもよもきく梅菜

什

散れもきけくそら尻子附巴り

也

狐と鼠と却て遠のく

什

墨袋の多く高しそら

也

あまハ松もわくそら

什

何れく初るハ何れ月雲

焉車

杉汁

奥切の者も御子入の秋
何れも御子入の御子入

車

腰ぬき糸も御子入

竹

是間此よつと一問ある事

車

華子と一問ある事

竹

をきりての人は一問ある事

車

臣の儲の多し一問ある事

竹

馬車と御子入の事

車

自分て御子入の事

竹

長身れハ神の蓋白く

車

水をとれハ月のまりく

竹

ハ月と多く御子入の事

車

御子入の事

竹

をきりての人は一問ある事

車

二の御子入の事

竹

去りての御子入の事

車

川と一問ある事

竹

菊月の暮色重くは山家静 升堂

只向くと 多分秋意 杉竹

雨の多ふうらよ 晩晴も并揚て 堂

通雲 後より 時斗 扱小 竹

是代々の泥をきり 拭く 彦 堂

釋の集り 冬乃 日 漏 竹

雲乃 畏 津 下りくもく ひとり おれ 有 草

と 雲を や 歩 けり 後の 湯 ぬ 候 五 山

と かつ 下 と 以 下 写 字 下 候 なる 程 一 花

と けり 小 春 川 へ 夕 暮 け 袖 垂 流 杉 良

く けり けり 程 静 へ 志 乃 矣 おれ 如 阜

哉 筋 も ぬ 色 清 へ けり けり 一 水

朝 露 の 晴 へ 夕 暮 の 暮 けり 一

一 っ せ けり 坂 の 東 矣 色 晴 けり 一

秋 色 や 薄 と 暮 けり けり 在 けり 岡 一

押入此やうの書立大桶う南 波文

船の内時多くねくね候事哉 完仕

お寺の号もせしぬ油うん 蓬宇

炭物や 甚く之際くも去乃味 喜杜水

ああひの万も替う事の雀うん 鹿牛

ゆきうふや 病の思ふ事とぞ一重 改月 連山

ゆりく甚くおしむ能や 秋の鳥 雲雀

折橋の流も徳と出く 折まき 碧山

あしらのいよ 際ふと 思ふ 折月 甲斐 通志

小池うも け乃あ川くむの雪 去房 翌年

世と折をあさ申 去信 む古の 去信

川 流くもく 灯くもく 友中 友

云 存ふて 動揚きあや 涼物

男 氣の 魁く けり 雪乃 友

く くらくも けいきのあや 友本 立 佐世 百丈

表を せしめく けりり 友月 久 雄

折 ち乃りり 友 立 折 柳が 友 雪 岡

折 ち乃りり 友 立 折 柳が 友 雪 岡 上 友 未 成

梅の枝をよききりし山乃人 上忌 柳梅

あつたふさふさの月 か美 柳壺

移けて甲斐のきりし月 武花 南

傍よりあけりし月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あつたふさふさの月 武花 南

あしなほの月乃人

大匠の作はあはれ

あ灯をきけ

静らさや小雀もあはれ

空のやあはれあはれ山月

雲のあはれあはれ

梅のあはれあはれ

押さへあはれあはれ

人のあはれあはれ

志戸不遷

花法 畫布

丹波 九花

因幡 樓鳳

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あはれ乃いりあはれや 花の上 梅子 涼呼

あいらぬむのちんく 井川 伊豫 島居

窮屈な枝ひらつれを 柳之尻 、 菜園女

小夜ふきやうの 舞臺も 枕元 荒 守遠

後の月苦みよりり 池ふりり 荒 本屑

常盤木の中は 萩のるをきり 荒 蹄石

おむの 一ひら 萩や 婿乃上 浪 本長

まきられた 舟の 灯ふり 萩の月 浪 雀歩

席の 灯の まくも 浪を 星と骨 浪 紫泥

何と 振るい みるも 萩 物うまみ 、 有 高

何れと 志ねぬ 柳の そと 萩 伊豫 杜 凌

春の 萩は 何れも 萩を 萩ひ 浪 天 山

くみろい 空萩の まる 柳之尻 浪 一 柗

畑を まくも 萩 萩 天 代 萩

分前も 萩の まる 云 萩 東 垣

月を まくも 萩 伊 丹 太 乙

けぞの 萩より 萩を まる 、 浪 子 萩

日の け乃 退きも 萩 大 萩 其 山

うゝ 萩の 萩も 浪 夕や 萩 浪 得 萩

くけろふ乃 氷の引く 笑う 那、梅 笠
帰る 街の 街の ちあつて 坂 坂、 東門
つらや ちあつて ちあつて 欠 欠 里、 漣
岸あつて ちあつて ちあつて 古 古 山
源一 ちあつて ちあつて ちあつて 少 少 左
のちあつて ちあつて ちあつて 鳥、 月 月 月
神宮 ちあつて ちあつて ちあつて 田 田 米
只われ ちあつて ちあつて ちあつて 三 三 崑
毎時 ちあつて ちあつて ちあつて 磨、 幻 外

そまゝと 梅の ちあつて 梅 乃 花、 坂 同
船の ちあつて 船の ちあつて ちあつて 月 之
小島 ちあつて ちあつて ちあつて ちあつて 非 密
皆 ちあつて ちあつて ちあつて 田 田 下、 佳 岸
ちあつて ちあつて ちあつて ちあつて 音 好
あつて ちあつて ちあつて ちあつて 城、 華 生
りふの ちあつて ちあつて ちあつて ちあつて 岳 陸
ちあつて ちあつて ちあつて ちあつて 水 鶴 井、 要 五

杉竹の ちあつて ちあつて ちあつて ちあつて ちあつて

露月 <small>下廿今泉</small> 野口武兵衛	露洗 <small>武秩父</small>	露秋 <small>水府</small> 菽月亭
山口之部	鹿城 <small>下七カヌメ</small> 江田時之丞	露眼 <small>蓮生</small> 依後仲右三門
一馬 <small>左府中</small> 藤原鑣之丞	惟艸 <small>江戸神田元一井丁 黒川氏</small> 惟草菴	一枝 <small>武井日市 深林居 中山左九井氏</small> 齋藤養菴
為山 <small>江戸下丁</small> 梅之本	逸洲 <small>江戸末地町下メ</small> 可布庵	逸英 <small>下サキ川</small> 釘屋卯兵衛
一營 <small>下廿今泉</small> 青柳市左三門	一昌 <small>武井カケ</small> 長光寺	易叟 <small>左友ア 老庭</small> 雨貝藤助
一止 <small>奥山タイ 執形庵</small> 宮下伊兵衛	一水 <small>左藤シマ 森ノ本</small> 橋本勘兵衛	一鳳 <small>お入ノ</small> 今井源七郎
一八 <small>日大モリ</small> 三ツ木勘太郎	一笑 <small>武井藤山</small> 馬場求馬	一芋 <small>武クメ川</small>
イ之部	一千 <small>おチキバ</small> 関野一十郎	一雄 <small>武チクトミ</small> 水車雄吉

イ
口

各々の五七五を扱せしる籠のソラも七五

よけしるはまねいもエウキウキ

七もやうな物くくの集えと法 月村

あはれ小籠の山もいひもや陣の礼違

まねとこまをこくくをいひもいひ

ゆきもいかなるもあましくもいひも中夜

くもいひもいひもいひもいひもいひも

あまもいひもいひもいひもいひも

子存も信乃くこれ花ありん 杉竹

芦舟 お宿山 小沢俊助 芦雀 下ササキ 永島佐左二門 芦洲 お門サハ橋 浄久寺

露山 お又目 勝学院 呂川 尾花十ニヤ 魯心 江戸下橋 合歡庵

鹿鳴 上七坂本

ハ之部

梅雨 下サ石上 清水三右工門 梅林 式アカノ 久保新右工門 梅通 京神東川 依屋六兵衛

波遊 波ミモリ 深谷右源次 十三ノ 波文 式大ヤ 勝田傳十郎 梅里 式ミツノ 牛久保千代吉

梅色 武山嶽山 須菱衛守 半露 おサマ 加茂仙右工門 白粟 信武石 清水東之助

白我 武大谷 東海寺 白鬚 武ヒノハラ 吉野郡司 白英 薩广 竹下市兵衛

白龍 下サ華ヤキ 永良寺 白螭 おイノ 建部義三郎 白峰 信ウスタ 山下佐源次

たるみ 信マツシロ 厚木伯氏 たるみ 江戸大門通 横山氏 花守 信トクマ 青木金吾

花垣 信タケシ 楠詰佐忠太 萬古 江戸マキ丁 穉至庵 巴用 お葉八ラ 加茂園次郎

巴休 佐上田 内山善左工門 反哺 水戸ミナト 白土帶刀 芭園 佐手奴 下河辺友吉

汎翠 下サ押砂 高栞三右工門 馬翁 薩アカユシマ 伊知地氏 方義 信ミカケ 柏木小右工門

芳柳 下サ今泉 青柳次郎左門 抱儀 浅州 不知亦

ホ之部

浦島 下サチミ川 原野要助 浦山 越ニイカタ 十一屋次平 保久賀 下サクホ 高橋庄左工門

豐水 浪花 踐兄之男 步牛 佐カサマ 清水氏

止負 中山及長ノ木 小沢慶次 木札 江戸日本橋通子ナ 万屋仁兵衛 木鳳 下サカトリ奈ノ 菅谷氏

宝亭 中山及長ノ木 奥野信四郎 蓬仙 好要志了 渡辺清左卫门 米花 下サカトリ 瓶屋友吉

へ之部

便之 下サ小足川 木村勝五郎

下之部

挑卿 武カサ川 石崎源六 挑兆 水川入 佐野玄之丞

都月 お白根 山本國五郎 挑鮮 カカサ 西 東左工门 挑餅 薩ノ 石沢猶右工门

桃園 下サ石虫 野口勘兵衛 挑居 信ノモト 大金屋三郎兵衛 東水 武今シク

東塾 下サニイ宿 榑塚幸助 東曜 武カカ 良忠寺上人 凸山 信上田

桐雨 五門沢ハシ 大久保太右工门 桐花女 下サユフキ 千種兵太夫妻 藤詠 武中毎 江戸屋友次郎

得扇 下サユフキ 鈴木直七 得老 下サユフキ 青山兵衛 得二 下サユフキ 橋本氏

得雅 下サユフキ 並木新次郎 年穂 武出嶽山 尾崎浦之外 免菟 下サ石虫 清水恭近

徳雨 武ナワトミ 武田徳次郎 徳武 武アサメ住 池内駒吉 渡江 江戸芝加通 光圓寺

冬洲 薩ノ 吉田治平 杜首 下サ佐ハナ 与倉屋権兵衛 杜曉 水府 岡部弥一郎

邊舟 カカサ 石井久右工门 桃溪 カサ石 小林大吉

十之部

池月 武井上 山本市郎左工门 池信 下サ新名 池田氏

竹里 下サ石虫 保立三郎右工门 竹堂 武秋津 小俣忠右工门 竹翁 武タクトミ 竹裡館

竹司 お金子 同宮着三郎 竹水 水戸湊 梅原弥四郎 竹友 武入リ 田口虎松

竹叟

信モ夕井

竹城多右工門

長壽

信長久末

櫻井甫伯

樽庵

水府

相沢亮輔

知則

明月亭

関川平兵衛

智秋

武ノモト

枕流

武アキメ

榎本氏

雀叟

伊七津

三谷勘吉工門

千園

信上タ

手塚頼三

千本

武アキノ

土方源兵衛

千邦

松樹庵

川上善兵衛

柳園

お若コ

柳絮

お川入

佐野庄兵衛

リ之部

柳枝

築クホ

内茂太平次

柳水

下サイヤシ

清水嘉兵衛

栗洲

信仁シナカキ

清水善三郎

律史

武川コハ

佐木三内

里椿

江戸山下下

里松

下サ石出

林弥惣右工門

里住

下サ石出

小林弥一兵衛

林曹

大坂

於菴

利物

尾カサマ

岩浅治太夫

李峰

下サニイシ

常世田五郎右工門

李卿女

光下タテ

奥山小一兵衛妻

立左

信マツレロ

寺内多官

立宇

お大坂

嶋立沢

菱井

下サ今泉

伊志孫右工門

良菜

下サテウシ

涼雨

下セヤシ

後臣九一郎

ナ之部

乙鷺

大坂

音好

信大谷

釜嶋屋善兵衛

鷺室

信サノ

中山五郎右工門

大井

新吉ウラ

紅鬚樓内

ノ之部

カ之部

和風

信モ夕井

西角茂兵衛

日存

武ウナシメ

他谷政之丞

香露子

江戸波河屋

成章館

柯雪

中山乃大井井サハ

佐藤市郎右工門

リヲワカ

四

可轉

甲アヲシ川

河野次兵衛

霞卿

下毛ウツノミヤ

植木茂右工門

樽磨

茂牛ホリ

須田源之丞

加み

信ウツ任
江戸

高橋維之助

岩水

下川世川

五十嵐善兵衛

可調

北山田

瀬戸俊兵衛

学園

下毛ウツノミヤ

赤田銓吉

岳鳳

城久伏又

荷笠

湖東日ノ
葉ノ杖

山本次兵衛

閑那

紀ウツ山

龍生院

佳柳

下川今泉

青柳伊兵衛

葛谷

茂牛ホリ

浅野勘右工門

賀光

下サクホ

管谷民藏

符溪

茂大又

石津良助

雅琴

伊七津

大和屋惣兵衛

河旭

下川石出

清水和助

嘉幸

下川小三川
野松君

舛屋嘉助

ヨ之部

搦舟

茂カサマ

水戸屋新八

養凡

伊賀上野

新堂屋春兵衛

洋居

奥ノハキ

龜田嘉兵衛

夕之部

大齡

武アラノ

一甫井

大夏

加賀全氏

直山氏

對石

北川信

大沢純次郎

淡節

赤赤ノ旧イニ

櫻井氏

沢雄

北白根

近衛良次郎

短長

茂豆戸

安山忠兵衛

盛年

京島丸通

花守

當車

茂笠石
伊草松子

平井三郎大夫

レ之部

連

江戸四ッ谷

大久保氏

連

江戸四ッ谷

連阿

下毛カヌマ

大出三五七

素樂

信モタ井
花並平

竹重八作

素月

武大ヤ

柳嘉吉

素外

武ヨコテニ在

北海之人

素文

武市ハラ

素行

長崎ノ人

雲水

増壽

下川カ取

増田信左工門

ムレソ

曾元 去山四 曾根茂左門

遜阿 吳來村 觀音寺

ノ之部

月雄 秋又アカノ 旭集人

都政雄 伊七四日市 山中屋百五郎

子之部

然 信の乳 養化堂 金沢宗伯

念 江戸屋マキ丁 惟然堂

十之部

南嶺 信上田 中村鎮人

南 武山嶽山 秋山帯刀

有子 信マツキ 政村新 堀氏

フ之部

蘭外 江戸アカ板 木永庵 平井百八郎

蘭砂 お三子 横溝宗浦

樂山 去山嶽山

藍水 下サイソノ 石橋利右門

藍水 武甲山

ム之部

無莫 江戸 伊達東村在佐 大橋栄之進

無一 佐野了念位 枕岳仙人

武一 信マケニ 清任文之亮

ウ之部

雨鳥尼子 江戸大塚 神谷氏母

雨夕 武大谷 松本庫之助

雨村 武五日市 内山氏

雲文 美おマ 富沢徹司郎

雲光 信マツカ 武田傳司

雲臥 七十四翁 お中里 満福寺

雲里 甲下ソ子 淨照寺

ク之部

花雲子 京 慈光寺實仲卿

花燕子 江戸半虎の介

花雲子 日

花勇 武ホタケ山

花月 巻大入 石井平次右門

花山 おクハラ 村山銀兵衛

禾月九 美仙タイ 横山与平次母

禾明 京島ラ 木津屋清藏

活芝 武ヲクトニ 茅留村 廣福寺上人

管貴 おエタナ

崔步 下サ鈍子 誉田友哲

貫虹 撰又ス、キ 神明寺 葛古 信八藏

小林勝右工門 黄山 尾名古 吉原五郎右工門

ヤ之部

野水 武ミソノ 牛久保五右工門 野有 武ホリカ子 逝水 菴

塾鳳 下サ平山

マ之部

窓九 上サ 未井 下サテ 福井氏

真壽 七十四翁 武善柳 横川瀬右工門

ケ之部

迎祥 信奥捨ノフモト 言流 舎景 舎 カサマ 大石原左工門

見外 江戸市ヨ小路 菊守 園

月藤 下サ今泉 遠坂三左工門 月弓 孝子ナレ 皆夜庄之丞

月郎 雲 水

月真 下サ今泉 跡勤 院 月庭 武山タラ山 久保田氏

月底 尾張名古屋

淡齋 武方島 伊丹氏

元星 武子任天王別当 神翁寺 惠雨 伊勢竹川 高木典膳

慶里 越中東岩瀬性桂村 比良根屋候右工門

ノ之部

文車 下サ幸サキ 木内権之丞 文東 下サ上ノ川 押田平兵衛

文清 水戸上ノ子 軍司太郎次

文哉 下サカヒ 函島善右工門 文好 お中ノ 市川定右工門

文鳳 下サ版田 星野角右工門

文翼 下サ小又 文蟻 お平尾 大谷弥市

文壺 信又ウレロ 安樂寺

文麗 下サセテキ 天谷半藏 汝平 中山尾本在 田村氏

不深 下サ谷

不換 おカノ 熊沢屋半左工門 楓山 下サユキ 守種兵太夫

布尺 下サ、ハラ 伊能源左工門 武村 下サ、イ 武田友兵衛

口之部

好文 武氏金子 梅下 屈 好静 越長子カ 高野八十左工門

梧月 水府 木村権次郎 吾三 信スハ 岩波孫次 甲斐 武川 林井氏

江月 下サ、ハラ 松 憲 江柳 考七、ハ 村田平助 石月 武ヒ、ハラ 德泉寺良洲

兵考 信マツモト 山本三五郎 兵碩 武ノ本 布施田大和 語桃 信松 厚木伯元

湖凡 信マツモト 寺島廣太郎 伍柳 下サ、イ 青柳伍左工門 護山 武子、エ

工之部

永枝 お寺子 柏木源左工門 榮枝 武、嶽山 片柳雅樂之次

惠風 下サ、鈍子 東岸精舎 燕桂 おイ、ハ、タ 鈴木氏 英泉 奥杉 遠友久次

焉車 相、ウ、タ 大貫弥七 淵斎 信、イ、ウ、ケ 大黒屋新太郎

テ之部

鍊冠 薩、ノ 島津氏 禹左 大坂、南、高、坊、考 花屋菴

天由 武、用、カ 鈴木六之助 貞止 おカ、マ、ク、ラ 大沢専輔 貞夫 信、カ、カ 小宮山清右工門

庭雅 武、大、谷 石川竹次郎 丁知 江戸、井、内、川 事仙子

ア之部

阿良子 江戸、赤、田、馬、場

阿龍女 葛舟同菴 埃外 江戸、信、以、野、松 宫内左右平 安哉 お、シ、キ、リ 熊沢屋市兵衛

有麦 吉川文助 文雄 下サ、大、川 浄土寺

ナ之部

杉臺子 江戸、赤、坂 水野姓 杉壽子 江戸、木、枕、丁

杉樹 相ヶうえ 永野与平次 杉丈 相門沢橋 依原时五兵衛 杉路 おフク田 因水盛吉

杉鳩 武小夕中 内友覚次郎 杉正 武川サキ 内友建次郎 杉指 武小カト 依藤傳八

杉笠 戒イヒ内 飯野庄右工門 杉暁 下サ石出 保立三右工門 杉涼 武ヒノハ 正覚院大行

杉鳳 下サ小貝ノ 菅谷氏 杉外 下サ石土 清水太兵衛 杉子 下サ室田

杉籟 武五日市 市倉金太郎 幸凡 信確氷嶺 曾根豊後 山静 武カウズ 山崎喜右工門

山路 下サユフキ 三宅武兵衛 山恒 雲 水 山外 武四ツ谷 落葉舎

山資 下サ、カヒ 小松原忘捕 山崎 下サ小八 山翠 お白板 山本九八郎

三桃 おサマ 片野要助 三酉 お山田 小宮熊太郎 三宜 下七カミノ川 今井善兵衛

茶山 越又ツク 六合菴 三友 武フツサ 田村氏 西馬 江戸敷子丁 惺庵

柿園 武四嶽山 須藤大内藏 相俊 下サイソ 藤山作右工門 在化 下毛

丸波 信四乳ノ任 赤四郎次郎 丸梅 月村一子 伴邦之助 聰長 下七カ又マ 高木長兵衛

蒼指 下タテ 画京

其文 相甲山 二宮重江市 其翼 下毛ウツノミヤ 石塚東一市 其連 下サ多田 東彦太郎

其由 夏大ワク 芳賀市左工門 其芳 下カサマ 加田屋直兵衛 箕山 江戸音山 太一菴

其鳳 下大カ 村瀬七郎 喜慶 お保ハラ 古屋善次郎 喜睦 武流川

喜鳳 下サ小貝ノ 菅谷吉右工門 喜久仁 下サ久亦 高橋治右工門 琴堂 上七大戸 加部氏 一松居又望生台信

琴甫 サツテ 石沢在兵衛 踐兄 大坂小久也ノ丁 錢屋十左工門 旧左 武青メ 横川氏 尺雪園

祇白 大坂小漫丁 龜遊 十三テ 龍池館 龍斤五 宮川千代花 銀岱 信及ノ人 雲水

曲阜 穢イタメ 大和田屋金四郎 玉峯 下サクホ 菅谷市右工門 京清 武マツ山 京屋清造

机静 武アチメ 田中八百右工門 莫眠 和川入 佐野助右郎 菊后 下サ依京 摘昌葺 号高奇

畧山 越村松 小鍛治氏 義人 下サ今泉 高橋茂右工門

由婦 水戸川ワタ 高倉氏 由水 信進 悠 和芳大ムラ 河原元次 由誓 日右工門

聖年 牛父達辰 戸川祐花 友甫 常南ツ、ミケラフ 田山吉左工門 友甫 武フツサ 田村重兵衛 寛永樓

友松 江部 四時菴 融弁 武川井 栗原藤花 有哉 武秋父 浅見有次郎

三芳女 和代ハタ 高橋初之浦 下サ長又マ 長壽院 未足 雲水 水茂登 下サ石出 穂建市兵衛

志徳 信上田 若松屋徳兵衛 松翠 相祚戸 井出吉太郎 松波 武アチメ 栗原松太郎

松竹 本四小柳 朱隣扇 松樹 和申ノ 市川佐兵衛 松涛 茂カサマ 原田玄圓

松遊 五祚戸 小泉七郎 松溪 武入マ川 天龍山主 松雨 茂処方 井村惣兵工

松風 おコウト 柳川新次郎 松居 おカサマ 棚谷善菴 松花 おササ 吉野屋

春映 信サラシナ 寺 沢氏 春友 武松山 小高常三郎 春山 阿比小松シマ 藍屋喜兵衛

春水 武 志幸 武ノモト 山本重右二門 尚川 上ノ川 榊田喜十郎

尚水 江戸四ノ谷 二六庵 晋弁 お右ハシ山 寶壽寺 舍用 吳仙タイ 五梅菴

蕉谷 お格ハタ 関野英吉 珠嶺 お金子 圓藏院 蕉鳩 秋香湖 古田翁助

杏壽 おクラミ 如外 下ササクラ 木倉氏 如元 信上タ 鹽崎氏

如山 信モタ井 橋詰仁左二門 如視 お中ツマ 長沼氏 如扇 お洲 生風舎

如雲 吳仙タイ 松居栄藏 如恒 常松タ 猪瀬球左二門 怒号 戊申三日市 北山屋信三郎

仁里 下サ成田 高安主才 斯風 下モツノ 白岐園 酒三 お門尺ハシ 佐友平作

八翠 武山若シコ 浅見常五郎 二鳩 下サ小ノ 玉井仁兵衛 四孝 武ナノ

慶水 武テウシ 中川弥三郎 車道 水府 岡見紋次郎 秋里 信モタ井 竹内茂八

菽露 おサマ 萩原藏部正 市猿 越右村松 小鍛治氏 安樂坊 下サテウシ 繁倉氏

壽乘 下サ貝ツカ 山口太右二門 壽山 武中トシ 鈴木伊三郎 晴月 永サマシ内 正行院

崇雲 江戸木ヒキ丁 和泉屋益太郎 子来 下サユフキ 根本伯明 子容 下毛ウツシヤ 虎屋彦太郎

只冬 薩戸 冬洲之又 而后 尾ノコヤ 錢屋喜兵衛

水壺 江戸雨ユク 双雀菴 百花子 江戸半庵四門外 至春館

シ之部

水佳 武大サハ 大垣跡平太

美石 下サ石也

岩田藤助美静

下サ小川 須田利兵衛

いりき 武ミツキ 一村履司

七之部

照知 下サ小川 元

木氏木長

下モカヌマ 鈴木終平

木芝 上モ子サキ

木夫 元封月 林長右工門

生也 水戸ミナト 菊地新七

下モ小川 関口貫一

七之部

生也 水戸ミナト 菊地新七

生也 水戸ミナト 菊地新七

瀬本 信

聖宇 北ササハ 來迎寺

聖居 上モ金子 神保要祐

雪装 信マツ本 加賀屋美八

怡龍居

清良 武トフ 宮下七郎

青竹 下モウレ家 石井孫兵衛

青吟 武カ子 坂本良哉

石遊 武中ト

碩水 雲水

石熊 武矢カウ 小橋忠次

石遊 武中ト

盛山 武子七 山本栄藏

洒我 武中ミテ 筋野奥太郎

泉少 北山田 古矢渡江

宜頂 北大山 沼野氏

秘遊 北ワタ 大津伊兵衛

雪藏 下サ宝田

岩 茂内

占春 水戸下町 占春堂

千瑞 武五上 花藏院

千枝女 北笠石

岩 茂内

又之部

杉人尼 江戸 杉之本

餅山 下モウレ 中本芳右工門

水溪 北台タカタ 水谷与右工門

水明 下モウツノミヤ 塚屋伊兵衛

杉武子 江戸半込夫来下 布施孫太夫

嵩月 信水象 柏木七右工門

追加

ハメ女 野日加小山ノ高家

一實 鎌倉在岡 莊嚴院隱居

雷石 甲州 黄楊門

一学 武市嶽山司 金井左兵衛

道等

甲州

白眼臺月村先生著述校合俳書目錄

月村七部集表題

初編皇國振集

序者

漢文水杉臺子
和文事仙子了知

全

嘉永五年出来

二編松葉搔集

序者

漢文鯨山人馬翁
和文花屋菴昂左

全

追刻

三編鯉之鱗集

序者

漢文龜田綾瀬
和文米隣扇松竹

全

日刊

四編種俵集

序者

漢文佐藤一齋子
和文左梅管家道孝

全

日刊

五編芭蕉葉船集

序者

漢文東流上人
和文蛭岡舎杉竹

全

日刊

六編荷笠集

序者

漢文森源景
和文茶飯亭蟻元

全

日刊

七編杉之翠集

序者

漢文平井蘭外
和文河原悠々

全

日刊

年月草初編

杉雨集 全

年月草二編

月村撰集 二冊

年月草三編

月村撰集 二冊

画像入百人一首

月村校合集 全 近刻

發句富士集

月村著述 全 近刻

友干鳥集

月村序文集 全

俳諧
季寄題

叢集

月村著述 二冊

